

令和4年度 第6回いちき串木野の歌人 萬造寺齊顕彰

黎明の地 ふるさと短歌大会集



萬造寺齊顕彰の歌碑（羽島崎神社境内）の隣に設置された
大会入賞者の短歌（プレート看板）

主 催 羽島史跡顕彰会・いちき串木野市・いちき串木野市教育委員会
主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
後 援 鹿児島県・鹿児島県教育委員会・県文化協会・県歌人協会
市文化協会・南日本新聞社・れいめい羽島協議会



表紙題字 堂元一静 氏(書道家:いちき串木野市出身)

〔主な経歴〕

2003 世界水フォーラム動書大賞受賞

2005 日本書道美術院展かなの部 全日本書道連盟賞受賞

2006 " 毎日新聞社賞受賞

その他数々の賞を受賞し、多くの個展を開催している。

目次

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって	いちき串木野市長	中屋謙治	1
選評	審査委員長	鶴田直樹(歌人)	2
黎明の地ふるさと短歌大会の概要			5
大賞および各部の最優秀賞			8
小学生の部			11
中学生の部			20
高校生の部			30
一般の部			40
留学生の部			46
応募校一覧			48

令和四年度いちき串木野の歌人 萬造寺斉顕彰

第六回黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって

いちき串木野市長 中屋 謙治

いちき串木野市は、めざす将来都市像を「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と掲げ、人が輝き、地域が輝く市政の推進に取り組んでいます。また、教育委員会では、活力ある教育・文化の振興を図るべく、「ふるさとを愛し、夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、さまざまな事業を展開してきております。

さて、本市では、羽島出身の歌人「萬造寺斉」先生を顕彰するため、地域の方々が、七月九日の命日に先生の墓前で望郷歌を歌う「墓前祭」を毎年実施されており、平成二十九年には先生の没後六十年を迎えるにあたり、羽島史跡顕彰会の方々が中心となって、小説「緑の国へ」を出版。また今年度には、歌人・萬造寺斉の望郷歌集の小冊子を発行されるなど、継続した顕彰活動に尽力されております。

市といたしましても、地域と一緒にあって萬造寺斉先生を顕彰するために、今回で六回目の短歌大会を実施いたしました。年を重ねるごとに応募作品数は増え続け、県内各地からこれまでで一番多い三千八百六十六首が集まりました。これもひとえに、黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会の皆さんをはじめ県歌人協会の先生方、本大会への応募に関わっていただいた多くの皆さまのご尽力の賜物と存じます。

集まった作品は、県歌人協会のご協力の下、厳正なる審査を行い、大賞をはじめ多くの優秀作品が選出されました。十月十五日には、いちきアクアホールにおいて、大賞他三十二作品の授賞式を執り行い、この度、優秀作品等を掲載した作品集刊行の運びとなりましたところであります。

短歌はその時々の世相を反映しながら、脈々と創作が続けられてきた日本古来のものであります。本市の短歌大会が、千数百年来の伝統的文化である短歌にこれまで以上に親しむきっかけとなり、ひいては、文化の振興につながっていくことを期待して、刊行にあたってのあいさつといたします。

選評

審査委員長（鹿児島県歌人協会会長） 鶴田 直樹

いちき串木野市羽島出身の歌人萬造寺斉を顕彰して始まった黎明の地ふるさと短歌大会も第六回を迎えました。この三年間はコロナウイルスという未知の感染症との、想像だにできなかった生活を余儀なくされました。その中で今年も応募数を更新し、三、八六六首の歌が寄せられました。作品をお寄せ下さった皆様、ありがとうございます。

国ほろびて歌は滅びず日の本の歌びとよこの事実をよく見よ

どんな時代であろうと、いえ困難な時こそ歌の力を信じた萬造寺斉が生涯愛した故郷に、時代を超えて歌を詠む心が受け継がれることに感動いたします。

第六回黎明の地ふるさと短歌大会大賞の栄誉に輝いたのは、串木野高校一年 谷口円花さんの歌です。

胸の内明かし泣く君励まして静かに寄り添う夏の放課後

ソーシャルネットワークワークの発達で、若者たちの人間関係が希薄になっているのをコロナ禍が拍車をかけたと言われています。心の裡を明かした友を励まし、しばらく静かに寄り添っている夏の放課後が、青春の輝きに満ち眩しいくらいです。特選に入選した歌には、友達に本心を明かし、励まされた歌がありました。もし互いを歌った歌なら素晴らしい歌の交流です。歌には直接言えない気持ちも込められるのです。

次に各部門最優秀賞の歌を紹介します。

小学生の部 最優秀賞

とくの島夕ぐれの道歩く牛手づなひく手も夕やけの色

伊仙町立鹿浦小学校四年 前 凜空

闘牛の牛を散歩させているのでしょうか。夕焼けが手づなを曳く手もそめていることに焦点を絞り着目したことでよい歌になりました。徳之島の夕焼けの迫力ある美しさが伝わります。

中学生の部 最優秀賞

夕方に自転車こいで帰り道一人じゃないよと影がささやく

南大隅町立根占中学校二年 松山 翔馬

学校から帰る途中、一人二人と友達と別れて一人になった。淋しい気持ちを自分の影が励ましてくれた。「一人じゃないよ」という自分の影との対話がよいですね。根占の夕暮も素敵です。

高校生の部 最優秀賞

暮るるまで畑に立てる祖父ありて今の我あり共に苗植う

市来農芸高校三年 桐原 龍翔

お日さまが登ると畑に出て、日の暮れるまで働き続けてきた祖父への尊敬の思い、また、その姿を見て自分の道を決意した歌が胸に深く届きます。一首の調べがあり、一言も無駄な言葉がない秀歌です。

一般の部 最優秀賞

帰るたび余所者めけるふる里よ餅をひとつ呼びよせてみる

霧島市 松永 由美子

故郷を離れ自分が変わったのか、故郷が変化したのか。親族や知人も減り、帰るたびに余所者となったような寂しさがある。下句の「餅をひとつ呼びよせてみる」が歌に奥行きを出しました。友の名を呼んでみたのか、親を呼んだのか。餅は返るものなのに、呼びよせるという意志が効いています。

留学生の歌

帰りたいタピオカを飲む友達と夜市で遊ぶにぎやかな町

台湾 陳 芝羽

ミャンマーの水かけまつり新年にけがれを流す良い年になれ

ミャンマー KAY ZIN OO

良き友と田んぼたこあげしらさぎの青空に舞う母の笑顔と

ベトナム LE TAI HOANG

カトマンズ歴史の匂いただよってたくさんの寺家族といのる

ネパール GHARTI KESHAV

四首とも神村学園専修学校日本語学科一年生の歌です。アジアの様々な国から日本語を勉強しにいらした皆さんが、素晴らしい短歌を作ってくださいました。皆さんの故郷の景色がよく浮かぶ歌です。これからのご活躍をお祈りします。

最後にコロナ禍の中、大会を継続して下さった、いちき串木野市をはじめ実行委員の皆様、学校運営に大変なご苦勞をされている中、応募して下さった各学校の先生方、そして今年も素晴らしい短歌をお寄せ下さった皆様に心より感謝いたします。

黎明の地ふるさと短歌大会の概要

一 趣旨

本市が輩出した歌人、萬造寺斎氏を顕彰するとともに、市の将来都市像「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と教育行政の目標である「ふるさとを愛し 夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり」の体现を目指します。

二 主催等

- (一) 主 催 羽島史跡顕彰会、いちき串木野市、いちき串木野市教育委員会
- (二) 主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
- (三) 後 援 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、県文化協会、県歌人協会
市文化協会、南日本新聞社、れいめい羽島協議会

三 応募作品数について

- (一) 小学生の部 七百三十五首
 - (二) 中学生の部 千八百四十七首
 - (三) 高校生の部 九百七十三首
 - (四) 一般の部 二百七十七首
 - (五) 留学生の部 三十四首
- 計 三千八百六十六首

四 各賞について

【入賞】

- 大 賞 全部門の中から一名
 - 最優秀賞 各部門一名（小、中、高、一般の四部門）
 - 優秀賞 各部門一名
- 〃

市長賞	各部門一名	〃
県歌人協会賞	各部門一名	〃
選者賞	各部門一名	〃
教育長賞	各部門一名	〃
南日本新聞社賞	各部門一名	〃
留学生賞	全部門の中から四名	
特選	【小 二十首】	【高 二十首】
入選	【小 三十首】	【中 三十首】
		【高 三十首】
		【一般 二十首】
		【一般 三十首】

五 表彰式について

日時 令和四年十月十五日（土） 午後一時三十分から

会場 いちき串木野市「いちきアクアホール」

式 順 〈オープニング〉 萬造寺 斉の紹介

開会のことば

実行委員会あいさつ……………川口勝則会長

市長あいさつ……………中屋謙治市長

来賓・主催者紹介

表彰

選 評……………鶴田直樹審査委員長

閉会のことば

六 選者（一次審査及び本審査）

鶴田 直樹

所属等 県歌人協会会長 にしき江主幹 読売新聞薩摩よみうり文芸歌壇選者

表彰 平成二十七年南日本文化賞受賞（錦江社「にしき江」）

作品 現代鹿児島短歌大系 21

鏑流馬 みどり

所属等 県歌人協会事務局長・県歌人協会青少年短歌育成副委員長 結社「黎明」運営委員

表彰 平成九年黎明賞（結社賞）受賞 平成十五年平成の歌会平安神宮賞受賞

黒瀬 圭子

所属等 県歌人協会運営委員 にしき江編集委員

表彰 第七回海南賞（結社賞）受賞

寺地 悟

所属等 県歌人協会運営委員 南船社編集委員 日本歌人クラブ鹿児島県代表幹事

表彰 平成四年鹿児島新報文学賞 平成三十年第33回国民文化祭文部科学大臣賞

平野 淳子

所属等 県歌人協会会員 山茶花社会員（結社名「山茶花社」）

表彰 平成二十七年山茶花賞受賞

川口 俊一

所属等 県歌人協会運営委員 山茶花社編集発行人（結社名「山茶花社」）

大賞および各部の最優秀賞

【黎明の地ふるさと短歌大会 大賞】

胸の内明かし泣く君励まして

静かに寄り添う夏の放課後

県立串木野高等学校一年 谷口 円花

【小学生の部 最優秀賞】

とくの島夕ぐれの道歩く牛手づなひく手も夕やけの色

伊仙町立鹿浦小学校四年 前 凜空

【中学生の部 最優秀賞】

夕方に自転車こいで帰り道一人じゃないよと影がささやく

南大隅町立根占中学校二年 松山 翔馬

【高校生の部 最優秀賞】

暮るるまで畑に立てる祖父ありて今の我あり共に苗植う

県立市来農芸高等学校三年 桐原 龍翔

【一般の部 最優秀賞】

帰るたび余所者めけるふる里よ餅をひとつ呼びよせてみる

霧島市 松永 由美子

小学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

大きめのせい服と来るランドセル春の風まう港の近くを

薩摩川内市立平佐東小学校五年 外城 蒼空

【市長賞】

ランドセルすがたじいじにほめられてきいろぼうしをふかくかぶった

いちき串木野市立生福小学校一年 生野 蓮斗

【県歌人協会賞】

こしき島うみの星かなきびなごがきらきら光るぼくのふるさと

薩摩川内市立手打小学校六年 四角 太河

【選者賞】

大綱の父の勇姿を一目見に太鼓の音を背に沿道進む

薩摩川内市立川内小学校五年 外島 莉奈

【教育長賞】

タブレットこくごの学しゆうたのしいなひとりしずかにかん字れんしゆう

いちき串木野市立市来小学校二年 大平 奏翔

【南日本新聞社賞】

おうごんのいなほの間をかけていく友がかなでる虫おいのかね

いちき串木野市立市来小学校六年 奥ノ園 彩世

【特選】

よいこらしよ向こうの島までひとつとび天狗の足に重ねるわたし

まってるよ走る姿を海岸で今年は見たいな競う馬たち

照島のがやく海で持久走赤いとりいを目指して走る

ランドセルドキドキしてる新学期わかぎのようにぼくものびゆく

和ダンスで出番待ってる浴衣たちさのさ祭りを夢みてるかな

あおいそらいつてきますとあるきだすいちきのまちにきいろいぼうし

暑い夏夜空にひびくたいこの音花火もきれいな夜空が笑う

フワフワとピンクの雨がおりてきてやさしい空のかんのんがいけ

にぎわいが春のおとずれ告げにくる上からのぞむ千本桜

たくさんのまぐろがつれたお祝いだ漁師の汗も塩水みたい

田植えの日どろのにおいが流れてる小さな稲がふんばっている

公園で遊んだあとは弟と一つの氷をとりあい食べる

カアカアと鳴いたカラスにうながされ走って帰った母の待つ家

阿久根市立脇本小学校五年 井上 優澄

いちき串木野市立照島小学校五年 下村 明維

いちき串木野市立照島小学校六年 吉内 俐穂

いちき串木野市立生福小学校五年 楮山 健

いちき串木野市立荒川小学校五年 山下 愛心

いちき串木野市立市来小学校一年 井出迫 咲衣

いちき串木野市立市来小学校五年 金澤 凜

いちき串木野市立市来小学校五年 栗山 怜奈

いちき串木野市立市来小学校五年 藤山 叶歩

いちき串木野市立川上小学校五年 前原 紅葉

いちき串木野市立川上小学校六年 川地 功祐

神村学園初等部五年 笹川 龍之介

神村学園初等部五年 森 一耀

竹を切り夏を楽しむ水の音笑顔の祖母がそうめん流す

あつまったみんなの笑顔うれしくてマスクの中に笑顔を作る

オニヤンマ黒いイナヅマ通り過ぎ僕の虫あみピクリともせず

光ってる黄色ぼうしの一年生海もキラキラお祝いしてる

バスでいすわって待つと見えてくる石がきの上わがやのあかり

あじさいがさくころかさにはぼつぼつとあまつぶあたりどこか悲しい

サンダルにすべりこむすなたのしんでなみとのきようそうかいがらひろい

【入選】

たけのこがぐんぐんのびるせいくらべみんななかよく大きくなるうね

かさ山に様々な色うまれたよ雨でかがやくあじさいの花

たのしみは家族がそろいしんけんにウノで勝負をしているとき

帰り道元気をくれる田の神さあきばりやんせとにっこり笑顔

運動会かけっこ玉入れソーラン節大漁ばたが見守っている

かわのみずゆうひがうつりきらきらとゆうひがしずむひかりはきえる

鹿児島市立伊敷小学校五年 松尾 颯介

鹿児島市立伊敷小学校六年 鶴田 美羽

鹿児島市立中洲小学校六年 二井 柁成

薩摩川内市立平佐東小学校六年 前野 美月

十島村立中之島小学校五年 久木山 希海

日置市立伊集院北小学校五年 関野 空

日置市立妙円寺小学校三年 新名主 愛希

阿久根市立尾崎小学校五年 川畑 稟子

阿久根市立脇本小学校五年 松木 愛海

いちき串木野市立串木野小学校六年 有馬 優里

いちき串木野市立照島小学校四年 下入佐 雄真

いちき串木野市立照島小学校五年 吉松 李桜

いちき串木野市立羽島小学校三年 米田 琉也

夕やけが海にしずむ光のようなやさしくてらす人になりたい

さわやかな朝の空気をすいながらわか葉の中で心おどりて

つゆのじき田んぼに行くぞちちのこえちいさななえががんばっている

バチにぎり気持ちをこめてひびかせるわれらがほこる荒川太鼓

おおさとにしかとらうしつるたいこおどりみんなあつまれたなばたおどり

マスクやけ口だけ白いコロナかのあせほほつたいマスクがぬれる

あさがおがくるくるのびてひろがるよなつにはたくさんはなさくといいな

さくら道風でまいちる花びらをぎゅつとにぎってねがいこめた日

きれいだなかんのんがいけのさくらの木ひらひらおりるさくらの花びら

帰り道たわわに実るポンカンは私の心を明るく照らす

試合前市来神社にお参りへ五円にぎって勝てますように

電気消し静かに目を閉じ耳すませ子守うたには虫の合唱

ポタポタと聞こえてきたよ水の音雨の庭石音楽隊だ

初打席俺はガチガチ目はうつろそして見事に空振り三振

いちき串木野市立羽島小学校六年 小野 明日

いちき串木野市立旭小学校五年 高原 みこと

いちき串木野市立生福小学校三年 幾留 祥

いちき串木野市立荒川小学校六年 中馬 曹

いちき串木野市立市来小学校一年 北ノ園 梨乃

いちき串木野市立市来小学校二年 中村 希妃

いちき串木野市立市来小学校三年 加治屋 心和

いちき串木野市立市来小学校四年 下池 聖奈

いちき串木野市立市来小学校四年 村山 佳歩

いちき串木野市立市来小学校五年 池之上 七海

いちき串木野市立市来小学校六年 三藪 大翔

神村学園初等部五年 坂元 健

鹿児島市立伊敷小学校六年 松澤 歩咲

鹿児島市立中洲小学校六年 岩重 一尊

軒下の子つばめえきまつ春の日に私の横を急ぐ親つばめ

将棋盤予想しない手に目を開き長考して出す自信ある一手

思いだす水であふれてくろうする雨の中した去年の田植え

大崎でぼくのおじいさん農家でね三十八の牛のお世話だ

お手伝い母に言われてふるそうじピカピカにしてドヤ顔のぼく

テレビから一枚、二枚とこわい声皿割る母に更にびくつく

夏の夜そぼといっしょに見上げれば満天の星にかさなる花火

吹上はきぼうの風をぼくたちに背中をおしてとどけてくれる

特攻の歴史が残る飛行機よ若者たちの苦勞伝わる

振り向けばどんとかまえる武家屋しきたたずむ庭も負けずおとらず

【佳作】

阿つくんとぐりぶー、つんを合わせたらとってもキュートでばくはつしちゃう

窓の外人形岩の母子ならば日がしずむ様じつと見つめる

ぼんたんの香りにひかれ歩く道遠回りした午後六時前

鹿児島市立中洲小学校六年 柿本 絆名

鹿児島市立中洲小学校六年 安水 彰

鹿児島市立宮小学校六年 針山 心美

日置市立伊集院北小学校四年 作下 陽士

日置市立伊集院北小学校四年 堀口 且陽

日置市立伊集院北小学校六年 稲留 直紀

日置市立伊集院北小学校六年 堀口 陽咲

日置市立和田小学校六年 岩坪 蒼空

南九州市立松山小学校六年 眞茅 愛心

南九州市立松山小学校六年 森口 愛加

阿久根市立脇本小学校四年 兒島 愛奈

阿久根市立脇本小学校五年 上野 航大

阿久根市立脇本小学校五年 柏木 志穂

海の上小さくうかぶ寺島は鳥といっしよに夜明けをめざす

夏が来るカエルの鳴き声ゲロゲロと夏の始まり知らせるように

りくじょうでたくさんはしろうたつたたくさんはしつてはやくになりたい

かえり道まつかな海をながめながら夕日も落ちてくぼくはそめられた

記念館留学生在が旅だった自分の住んでる町だったんだ

広い空どこまでつづく生ふくのむげんの空をおいかけよう

たくさんのひとであふれるかかんさいいろいろなひとかんしゃおくる

まんかいのかんのんがいけはなふぶきはながちるころしようがくせい

おとうさんの休みの時に魚つりふわふわくらしげしずかにおよぐ

創立一五〇周年変わらない松林に見守られ歴史のバトンを精一杯つなぐ

流木を立秋のころおいもとめみんなで笑った照島海岸

竹の子さんぐんぐんのびて元気だねわたしもなりたい大きくなるぞ

かぜのうたグリーンいろのはっぱたちきからはっぱがひらひらととぶ

青い海時がたてば赤き海夜が明ければまた青くなる

阿久根市立脇本小学校六年 大瀧 奈々聖

いちき串木野市立照島小学校五年 坂元 かのん

いちき串木野市立羽島小学校二年 元山 由紘

いちき串木野市立羽島小学校三年 梶 綜佑

いちき串木野市立羽島小学校五年 赤岩 路唯

いちき串木野市立生福小学校二年 宇都 紘矢

いちき串木野市立生福小学校四年 萩木場 伊侑里

いちき串木野市立市来小学校一年 小村 藍翔

いちき串木野市立市来小学校三年 大迫 琉愛

いちき串木野市立市来小学校五年 時田 珠乃

いちき串木野市立市来小学校六年 田嶋 柚葉

いちき串木野市立川上小学校二年 久徳 来衣

いちき串木野市立川上小学校四年 小牟田 ひまり

いちき串木野市立川上小学校五年 田淵 沙恵

盆休み手を合わせて話しかけ思い出すのは優しい笑顔

おだやかな波にうかんでよそいきの顔を見せてる桜島かな

ぼくたちのいしきのたからつる岡さん金メダルを二回もとった

教室ざらざらさくら島みんな大好きさくら島みんなの人気者さくら島

休み時間まどを開けるとさわやかなマスクごしの伊敷の風

ひこうきのまどから見える景色たち行きはキラキラ帰りはにじむ

さくらじま冬にはつもってうれしくてこうふんしたらゆだんでんてき

いしきの子えがおはなさくいしきつ子いしきの子たちふるさとのあじ

あざやかに夜空をかざる次々とコロナ終われと願いをこめて

さくら島今日も元気にふんかする鹿児島島の町夏の火山灰

熱風が私のほほをすりぬける山々の間もすりぬけていく

マンションからいつでも見えたJR今は電車からマンション見るだけ

雪だるま笑顔で冬を見守っている春にはとけて役目を終える

雨がふり田んぼに広がる丸い輪が夏の太陽ゆらゆらゆれてる

神村学園初等部五年 國井 夢花

神村学園初等部五年 竹元 蓮

鹿児島市立伊敷小学校五年 飯山 裕大郎

鹿児島市立伊敷小学校五年 大久保 梨恵

鹿児島市立伊敷小学校五年 大山 琳

鹿児島市立伊敷小学校五年 岡市 瑠々琉

鹿児島市立伊敷小学校五年 梶 昂瑠

鹿児島市立伊敷小学校五年 蒲地 凜

鹿児島市立伊敷小学校五年 葛迫 聖那

鹿児島市立伊敷小学校五年 久保 野々香

鹿児島市立伊敷小学校六年 福永 咲絢

鹿児島市立中洲小学校六年 永徳 航

鹿児島市立中洲小学校六年 平良 莉翔

薩摩川内市立平佐東小学校五年 米増 美弥

父の日は何あげようかプレゼントくつにしようか花にしようか

日置市立伊集院北小学校四年 内山 凜桜

父さんはかみ切る時はおふる場ではさみとバリカンチヨキチヨキと

日置市立伊集院北小学校四年 東 康誠

ねむたいな朝はにが手だ夜が好き目ざましが鳴る止めてまたねる

日置市立伊集院北小学校四年 本村 月奈

つゆの空お日さまどこでかくれんぼ早くでてきてみんなで遊ぼ

日置市立伊集院北小学校四年 山田 瑠輝亜

波の音静かによせる砂浜に消えてなくなる私の思い出

日置市立伊集院北小学校五年 久木原 里空

パチパチと地いきでの鬼火焚きと大きな花火炎の呼吸でコロナに勝つどー

日置市立伊集院北小学校五年 滝野 隆心

都会っ子高そうビル見てどうじない明るい夜もなつかしいぼく

日置市立伊集院北小学校五年 西川 耕平

一面に広がっているお茶畑緑の中に汗流す父

南九州市立松山小学校六年 菊永 絢音

中学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

われんきやが輪になり踊る伝統やご先祖さまを背中にしよって

徳之島町立井之川中学校一年 藤田 一徹

【市長賞】

懐かしい音色を乗せる朱の山車は闇をかき分け進む流星

いちき串木野市立市来中学校二年 石堂 未遥

【県歌人協会賞】

炎天下銅がとけそうな西郷さん冷たいアイス買ってきました

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校二年 小園 稟子

【選者賞】

何もない何もないからいいんだと気付かされたよ人ごみの中

薩摩川内市立川内南中学校二年 安海 香奈

【教育長賞】

丁寧な言葉づかいがタメモロ^{ぐち}へ転校生から友達となる

いちき串木野市立羽島中学校二年 米田 朱璃

【南日本新聞社賞】

杉の木のかおりをのせた若葉風私の不満のせてどこかへ

鹿児島市立武岡中学校二年 川崎 悠花

【特選】

我母校木造校舎の教室に古い黒板なつかしの傷

部活中光の壁が邪魔をする僕らの視界は三分の一

雪積もり窓の向こうの白銀に寒さに強い我ら伊佐の子

五反田の清き流れに育てられゆったり泳ぐあゆの魚群

庭先で東の間の遊び終わるとき線香花火の光も落つる

雨の日の水たまりには傘うつる水の裏側どううつるのか

どこまでも続く砂浜光る海沈む夕日にてらされてゆく

学校の美術室から見える海羽島の海が名画のように

都会行きふるさとの良さ思い知る海が恋しい修学旅行

止まっていた時間が今動き出す太鼓はひびきみな踊りだす

慣れた道いつもの風景友とゆく春をむかえてそれぞれの路

きれいだな海に夕日が反射して一直線に繋がっている

朝起きて玄関出るときこえてきたアカシヨウビンのなつかしの声

始良市立蒲生中学校二年 中村 智樹

始良市立蒲生中学校二年 山下 京祐

伊佐市立菱刈中学校一年 亀割 優衣

いちき串木野市立串木野中学校一年 藤田 凜

いちき串木野市立串木野中学校三年 吉永 力輝

いちき串木野市立串木野西中学校三年 楠生 未来

いちき串木野市立串木野西中学校三年 乗越 友香

いちき串木野市立羽島中学校一年 萩元 誉

いちき串木野市立羽島中学校二年 福菌 柑菜

いちき串木野市立市来中学校一年 祐下 竜毅

いちき串木野市立市来中学校三年 今村 心春

神村学園中等部一年 的場 心寧

神村学園中等部二年 里山 星亜羅

開かぬ目をこすりながら行く林道でハイビスカスが僕に手を振る
 昔からにぎわっていた商店街コロナでどんどんシャツターしまる
 ありがとう桜のかおる校庭で大事な友に別れを告げた
 祖母からの毎年届くお手製の赤い梅干し手紙も添えて
 軋む床蓐が絡まり黄ばむ壁空き家となった古き我が家は
 勉強をしながらいつかうわのそらあの子のことでほてる両頬
 決勝の七回裏の本塁を絶対守ると声張りあげる

【入選】

ふるさとに代々伝わる山田染親から学びまた受け継がれる
 学校の入り口にある入賞名いつか私も飾られたいな
 波の音背中に聞こえる浜競馬串木野の伝統未来へつながれ
 車降り木々の間を分け入れれば体を包むサワーポメロの香り
 夕暮れのうっがんどんに風通る部活帰りの私を励ます
 友だちと釣りに行くぞといきごんでいつまでたっても静かなバケツ

指宿市立南指宿中学校三年 濱田 倅嘉

指宿市立南指宿中学校三年 林山 豪起

鹿児島修学館中学校二年 櫻井 智佳

霧島市立霧島中学校二年 上園 りこ

霧島市立霧島中学校三年 川崎 慎太郎

霧島市立霧島中学校三年 久保田 笑弥

霧島市立霧島中学校三年 鎗水 龍飛

阿久根市立三笠中学校二年 野畑 にご

出水市立大川内中学校二年 西牟田 桃花

いちき串木野市立串木野中学校一年 森山 遥斗

いちき串木野市立串木野中学校三年 今村 心香

いちき串木野市立串木野中学校三年 福山 沙樹

いちき串木野市立羽島中学校一年 舟倉 来夢

分かれ道近道行くか海見るかやっぱり僕は海に一票

我の陰テスト期間が終わった日背中を丸めたほっとした陰

初々しい隣の教室新入生五月の風が青き葉ゆらす

木に巻いて花を咲かせる朝顔や生きぬく力この高さにある

保育園一位を取りし短距離走今も追ってるプロ選手の夢

授業中先生の声子守唄まるで眠りの魔法使いだ

赤青黄霧困気ただようアロハシャツ夏の終わりがとてもかなしき

朝焼けや家族で集ふ展望所燃ゆる山みて気炎をもらふ

青と白時が進めばくれないに部活の音が聞こえてくるよ

髪ゆらし車窓をぬける茶のかおり緑の波は後へ流れる

昔から僕を見守る桜島勇気をもらう大きい背中

腐葉土と樹液のにおい呼び覚ますカブトムシらと戯れし夏

聞こえるよ包まれる音波の音幼き頃の美しい歌

授業中頭の上で軋む音扇風機らの静かな会話

いちき串木野市立羽島中学校二年 鮫島 慎之介

いちき串木野市立生冠中学校一年 肥前 宏希

いちき串木野市立生冠中学校二年 久保 楓華

いちき串木野市立市来中学校三年 祐下 藍輝

神村学園中等部二年 坂元 めい

神村学園中等部二年 鈴木 和也

指宿市立西指宿中学校二年 井上 幸妃

鹿児島市立黒神中学校二年 田中 璃杏

鹿児島市立坂元中学校一年 堂園 佳世

鹿児島市立坂元中学校三年 山口 遥大

鹿児島市立清水中学校二年 山下 隼人

鹿児島修学館中学校二年 萩元 雅治

肝付町立岸良学園八年 飯森 恋紋

霧島市立霧島中学校三年 坂元 彩乃

十八の兄といっしょに過ごす夏全員揃う最後の時間

窓の外夕日が照らす屋根の上ひそかに始まるからすの集会

あと少し優勝目前心決め仲間にかくす勝利へのトス

授業前ろうかを走って教室へ教師の威圧ただちに歩く

運動会皆の応援鳴り響きリレーアンカー胸を張る秋

冬の夜親とケンカしひとりきり無数の星がはげますキラーン

暗闇で用意始める鬼三匹鬼追いだんだんもり上がる時

赤とんぼ追いかけて知った土の匂い大きく優しい祖父の手のひら

炎天下長島中にひびきたるゆかた姿の御八日踊り

コンクール力強くて華やかな篤姫のように弾くぞスケルツォ

【佳作】

徐福像冠岳の仏様高い場所から皆を見守る

こおろぎの澄んだ鳴き声浸み渡る川の流れと黄金こがねの稲穂

串木野のちかえて祭りのちようちんが風に吹かれて揺れている

霧島市立霧島中学校三年 八ヶ代 虎次郎

さつま町立宮之城中学校二年 折小野 陽帆

さつま町立宮之城中学校二年 河野 結愛

さつま町立宮之城中学校二年 桐原 貫樹

薩摩川内市立川内南中学校二年 上村 孝太郎

曾於市立末吉中学校二年 石井 花紅

曾於市立末吉中学校二年 日高 ゆず

十島村立中之島中学校三年 山下 流颯

長島町立長島中学校二年 桐野 心来愛

日置市立伊集院中学校二年 呉 香莉

いちき串木野市立串木野中学校一年 久木野 麗也

いちき串木野市立串木野中学校一年 久木山 柚奈

いちき串木野市立串木野中学校一年 中村 真菜

すずり岩水がかれぬと言いつつも水がかれてるそれも不思議だ

五月晴れビニールカラス目印に子育てはじめ幸せな時間とき

夕焼けの乾いたコートに抜ける風破れたネット仲間の笑顔

立ち止まる隣の列には踊る人不思議な気持ちさのさ祭り

行きたびに安心をただよう祖父母の家満面の笑み孫来るたび

かすむ宵荒川川を乱舞するゲンジボタルの流星群

暗い空闇夜を照らすホタルたち森の守護神夜の照明

英国へ一步ふみ出す十九人私も歩むまだ見ぬ世界

見わたせば桜もつくしもなくなって気持ち変わる夏の太陽

ツルの声響くあの町帰りては線香漂い祖母と二人

荒川のきれいなほたるみえるとき空一面に小さな光

あさいちで黒にんにくのしゅうかくをがんばってとりいい汗をかく

耳すまし聞こえるのは草かり機緑一面パツと丸裸

ぼくたちの行事を担う祇園祭り子どもがのぼるあの大きなだし

いちき串木野市立串木野中学校一年 吉永 光希

いちき串木野市立串木野中学校二年 大平 篤志

いちき串木野市立串木野中学校三年 井手上 菜音

いちき串木野市立串木野中学校三年 下村 天寧

いちき串木野市立串木野中学校三年 平石 璃桜

いちき串木野市立串木野西中学校一年 蛭原 万梨香

いちき串木野市立串木野西中学校一年 森 丈侍

いちき串木野市立串木野西中学校二年 木下 帆乃

いちき串木野市立串木野西中学校三年 中山 理市

いちき串木野市立串木野西中学校三年 橋之口 友愛

いちき串木野市立串木野西中学校三年 満留 悠杏

いちき串木野市立生冠中学校一年 楮山 大和

いちき串木野市立生冠中学校二年 内田 千陽

いちき串木野市立市来中学校一年 大迫 愛仁

我町はまぶしい光の瑠り色海がいつの日か私を勇気づけた

ベツトから始まる一日学校へ先生と一日勉強帰りの会長いなあ

広がりし田の一面を眺めつつ父と一緒に稲を育む

潮風と共に流れる波の音夏の空へと響きわたる

黒潮の潮風そよぐ夕暮れ時ふと空見ると切なき心

あの夏の拾う貝殻両親と思い出語る自由研究

ガラスには新たな羽化の喜びと新たに始まる旅への期待

草花やあれよあれよとおいしげり育つを止めぬ夏の空

しおかぜの香りただよう帰り道我の黒かみ香りがしみる

会うたびに祖母の背中が小さくなり時の流れを感じつつ

どこまでも続いていた田一枚に焼けた祖父の手梅干しに伸びる

はじめまして何度言ったか忘れたがまた増えたのだ帰るべき場所

家の庭ネットをつくり打ちまくる父と歩んだ8年間だ

ペンライト声出せずとも思い込め気持ちつたえる観客席

いちき串木野市立市来中学校一年 加治屋 咲良

いちき串木野市立市来中学校一年 田中 貴英

いちき串木野市立市来中学校一年 中島 悠輔

いちき串木野市立市来中学校二年 久徳 蘭

いちき串木野市立市来中学校二年 小牟田 紗南

いちき串木野市立市来中学校二年 小村 梨愛

いちき串木野市立市来中学校二年 水流 千尋

いちき串木野市立市来中学校二年 橋野 美咲

いちき串木野市立市来中学校二年 久松 香織

いちき串木野市立市来中学校二年 南竹 愛夢

いちき串木野市立市来中学校三年 大久保 結依

いちき串木野市立市来中学校三年 溝上 かれん

神村学園中等部二年 窪田 ひなた

神村学園中等部二年 別府 侑奏

背伸びして育つひまわりうらやまし我が成績も伸びてと願う

帰り道友といっしょに笑い合う夕陽が照らす青春の影

秘密基地私と君の思い出は新たな隊員書き変えられて

荒れ果てた反射炉のあり仙巖園栄華の時はいまは何処へ

あじさいの傘にうつる友の顔登校ねむく下校は笑顔

給食の香りただよう教室に飛んだ怒声と換気の微風

暑い昼光に照らされ部活中吹く風届け声だし練

青嵐に乗せられ虫が飛んで行くまだ見ぬ境地行くのだろうか

めんどくさいそんな気持ちは誰だって友と出会えばやる気変わる

ふるさとで久しぶりに見るこの景色帰省の度に消えてゆく緑

手をつなぎきれいな浜辺歩きだす火山をバックに映ゆるあなたと

ふるさとの夕日が見えるグラウンドで汗が流れる僕の青春

竹刀持ち相手の面に打ちつけて一本取った一年の夏

月明り窓に反射し見上げるとすかさず見えたもみじの若葉

指宿市立南指宿中学校三年 西 彩花

指宿市立南指宿中学校三年 橋口 優乃

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校二年 川野 遥陽

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校二年 谷 颯

鹿児島市立坂元中学校一年 西川 陽姫

鹿児島市立坂元中学校一年 住本 愛恵

鹿児島市立坂元中学校一年 坪山 友理音

鹿児島市立坂元中学校一年 又吉 優李

鹿児島市立坂元中学校二年 高橋 徠聖

鹿児島市立坂元中学校三年 熊野 泰士

鹿児島市立清水中学校二年 福留 衣紀

南大隅町立根占中学校二年 福吉 悠幸

霧島市立霧島中学校二年 山口 南帆子

さつま町立宮之城中学校二年 有村 優

田植えの日みんなで協力なえ運び家族みんなで頑張った。

ラケットに思いをこめてふみこんで「さあ打ちこむぞ」力のサーブ

3歳で大人の味を知った僕水と間違え芋じょうちゅう

夕暮れ時うすだいだいの空の色夕日と重なる紫尾のやまなみ

田植えやつどきばるじっちゃん日焼けするそれを見た僕心が痛い

今はもうなつかしい味じいちゃんが甘く育てた大きなスイカ

ゆらゆらと竹踊る町新緑めぶく吹き込む風が夢へと誘う

山登り日差し照りつく紫尾の山目指せ山頂汗しみる服

また会えた田の中の君白さぎの飛び立つ姿に見えた黒かな

大網の熱気感じてムンムンとつり上がる頬を伝っていく汗

祖母のもとゆずの香りが漂えばひそかに思う祖父の愛情

さつま町立宮之城中学校二年 尾付野 龍之介

さつま町立宮之城中学校二年 上江川 蒼昊

さつま町立宮之城中学校二年 草留 璃希

さつま町立宮之城中学校二年 崎本 健吾

さつま町立宮之城中学校二年 田島 諒大

さつま町立宮之城中学校二年 永山 鈴彩

さつま町立宮之城中学校二年 前野 心絆

さつま町立宮之城中学校二年 山迫 航基

さつま町立宮之城中学校二年 八日園 好華

薩摩川内市立川内南中学校二年 本鍋田 拓翔

曾於市立末吉中学校二年 石脇 未依菜

高校生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

「がんばれ」と一言添えられる祖母からのあくまき頬張り牛舎へ走る

県立市来農芸高等学校一年 吉野 由桜

【市長賞】

夏祭り友達みんなでラムネ飲むビー玉カランと夜に鳴り響く

鹿児島情報高等学校二年 松下 隼斗

【県歌人協会賞】

島じかん動物たちも人間も皆ゆつくり横断します

神村学園高等部三年 廣畑 小夏

【選者賞】

青空に洗って干した洗濯物取り込むときにはカツオの香り

県立鹿児島水産高等学校三年 新屋敷 拓大

【教育長賞】

特急は停まること無く去って行き人影虚し長大ホーム

県立川内商工高等学校一年 濱口 蒼大

【南日本新聞社賞】

部活後の汚れた服と墨の白い自信とともに染みついでいく

県立串木野高等学校二年 古垣 夏実

高校生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

「がんばれ」と一言添えられる祖母からのあくまき頬張り牛舎へ走る

県立市来農芸高等学校一年 吉野 由桜

【市長賞】

夏祭り友達みんなでラムネ飲むビー玉カランと夜に鳴り響く

鹿児島情報高等学校二年 松下 隼斗

【県歌人協会賞】

島じかん動物たちも人間も皆ゆっくり横断します

神村学園高等部三年 廣畑 小夏

【選者賞】

青空に洗って干した洗濯物取り込むときにはカツオの香り

県立鹿児島水産高等学校三年 新屋敷 拓大

【教育長賞】

特急は停まること無く去って行き人影虚し長大ホーム

県立川内商工高等学校一年 濱口 蒼大

【南日本新聞社賞】

部活後の汚れた服と墨の白い自信とともに染みついていく

県立串木野高等学校二年 古垣 夏実

一般の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

うぶすなの香りその身にまとひつつ今ぞ旅立つ海亀の子ら

熊毛郡屋久島町 大牟田 壮一郎

【市長賞】

嫺やかに百二年を終う伯母ひとのあり野辺の送りに「ふるさと」流る

鹿児島市 今村 圭子

【県歌人協会賞】

あぜを焼く炎走りて夕暮れの棚田の水面ほのかに明かし

いちき串木野市 火野坂 幸子

【選者賞】

思ひ出をたどりて集ふ学び舎に旧友のごと残る木々在り

鹿児島市 田中 司郎

【教育長賞】

辞令受け子ら待つ島へ赴く教師肩から若き立ちのぼりたり

日置市 坂口 勝美

【南日本新聞社賞】

ふるさとは闘牛の島 豪胆な勢子の身振りを幼ならの真似ぬ

薩摩川内市 里山 喜和子

【特選】

ピコピコとLINEつないで更ける夜祭り語らう遠くの友ら

亡き父の墓前で三代手を合わすせみしぐれ降る盆の夕暮れ

ただいまと駆け込む吾に母の声聞こえてきそうな実家が売れる

父は逝き母も逝きたる故郷は想い出詰まる私の本棚

図書館のまぐろ釣具に父想う日焼けた腕と曲った親指

太郎太郎をおえし我が子のひとみには如何に映るか先のふるさと

子も孫も帰り静かな部屋のすみべビー布団のかたちの日焼け

ふるさとの言葉あふれし四畳半フォークギターと煙草つけあげ

「これ読んで」絵本を渡しひざ座わり特等席で絵本を見てる

旅先のお土産屋さんですぐばれるですすという日常により

過疎すすむ島に時報の鳴りわたる限界の村哀れむやうに

編笠を真深に被り若き母われに気付かず踊りゆきたり

国と国争ふことも知つてゐる一年生に夏休み来る

いちき串木野市 宇都 礼子

いちき串木野市 梅北 成文

いちき串木野市 黒江 康子

いちき串木野市 溜池 とよ子

いちき串木野市 通山 咲子

いちき串木野市 中島 典幸

いちき串木野市 火野坂 嵩之

いちき串木野市 山神 哲男

神村学園専修学校こども学科二年 木山 晴夏

神村学園専修学校理学療法学科一年 坂牧 さくら

鹿児島市 川端 清一郎

鹿児島市 杉本 葉子

鹿児島市 唐仁原 幸子

そそくさと六月の雨畳まれて勾配深く夏へ入る里

消去法で選んで歩く散歩道ぎゅつと強めに靴紐締める

雨止みて刈払ひ機が響き合ふ地域の皆の言葉のやうに

乗用の田植機もらひて喜々とせり少年のごとく操作する夫

伝統の浜競馬なき照島に帰り渚の夕日を写す

父の齡疾うに越えたる長男が遺影と交す父の日の盃

空港に到着すれば父の顔「セゴドン」のごと太き眉して

【入選】

霜の夜潜りこみけり懐の温さと同じ父の手のひら

初孫を授かる友へ故郷のサワーポメロと糸びな送る

南風吹けばふるさと便ビンの汽笛鳴るはるかに見ゆる島シマかげ恋しコイ

頭のみ残る鮪の上がりたり延縄おそふ鮪の仕業か

上京しきびなごと逢ふうれしきよ薩摩醤油は香ばしきかな

太陽の照らす園庭夏風が子どもの頬を優しく撫でる

鹿児島市 中間 郁子

霧島市 田代 裕子

霧島市 前田 良文

霧島市 前原 ナリ子

薩摩川内市 笹原 武幸

薩摩川内市 別府 初美

曾於郡財部町 脇丸 洋子

いちき串木野市 後潟 富美子

いちき串木野市 川口 京子

いちき串木野市 早川 三保子

いちき串木野市 平石 勝嗣

いちき串木野市 前屋 浩文

神村学園専修学校こども学科二年 川崎 虹龍

園庭の元気いっぱい子どもたち汗を流して思い出作り

初夏の夜家族を求め飛ぶ光やつと帰れた私の故郷

川内市長く流るは川内川川を漕いでく筋肉の群れ

おまつりの白いの中でおはら節に天文館が楽しく揺れた

一日の終わりを告げるあかね色教室染める照島の赤

学校の有りふれた日々のルーティンに後から気付く戻らぬ日常

最寄り駅学校終わり電車ないいつもより道アイスのゆうぐれ

会いたいな沖縄の海さんご礁エイサー祭り花火大会

鯉のぼり山あいの風いっぱいに祖父母の願いふるさとに泳ぐ

離島より赴任したての我を待つ春爛漫の桜トンネル

荒れはてし耕作放棄の田や畑にさまざまな花が咲きとむらふ

「かわいくて仕方ないの」と女生徒が黒牛の顔しきりに撫でる

泥濘ぬかるみに足とられたる児らの歓声こえ手植え田もの面に郷愁の風

水張田のかたへに座する田の神よ千年笑みて豊穰祈る

神村学園専修学校こども学科二年 段 愛梨

神村学園専修学校理学療法学科一年 園山 千夏

神村学園専修学校理学療法学科一年 茶圓 笙太

神村学園専修学校理学療法学科一年 柳 ゆうき

神村学園専修学校作業療法学科一年 猪之鼻 駿

神村学園専修学校作業療法学科一年 谷口 実優

神村学園専修学校看護学科一年 池林 陽菜

神村学園専修学校看護学科一年 玉城 清花

鹿児島市 柿元 啓子

鹿児島市 北山 剛正

鹿児島市 平田 宗隆

鹿児島市 丸山 克介

鹿児島市 本車田 省三

鹿児島市 山下 順子

夢ひとつ遮られたる過去思ふひとり佇む夏の踏切

娘からわれにおあがりのスニーカー履き心地よし朝の地を踏む

田植機の後追ふ鷺の静やかにふるさとの山雨に烟れり

田舎家のオクラの苗の植ゑ残り宙ぶらりんに生かされて夏

外出の自肅解除の夏の朝父母の墓前のほほづき紅し

ふるさとの海に向かへば甦る磯で竿ふる若き日の父

季ごとの漬け物作る一人居の姉の大樽庭に陽を浴ぶ

生家跡羽島の海を見渡して庭の赤榕は緑蔭深し

鈴生りに庭の柿の木赤き実よ住む人無なきや大空の下

甲高く鳴く声聞けば懐しき羽ばたく鶴の群れと帰省す

霧島市 有川 陸子

霧島市 稲満 洋子

霧島市 河野 史江

霧島市 児玉 久

霧島市 山口 サキ

薩摩川内市 嶋崎 瞳

薩摩川内市 新屋 純子

薩摩川内市 塚元 恵子

薩摩川内市 萬造寺 和子

日置市 新名主 佑子

留学生の部

帰りたい夕ピオカを飲む友達と夜市で遊ぶにぎやかな町

チン チュー
陳 芝羽
神村学園専修学校日本語学科一年

ミャンマーの水かけまつり新年にけがれを流す良い年になれ

ケー ジン ウー
KAY ZIN OO
神村学園専修学校日本語学科一年

良き友と田んぼたこあげしらさぎの青空に舞う母の笑顔と

レ タイ ホアン
LE TAI HOANG
神村学園専修学校日本語学科一年

カトマンズ歴史の匂いただよってたくさんの寺家族といのる

ガルテイ ケサブ
GHARTI KESHAV
神村学園専修学校日本語学科一年

応募校一覧 計六十三校

※市町村は五十音順
学校は、小中高の順にて掲載

- 始良市
 - 始良市立蒲生中学校
 - 阿久根市
 - 阿久根市立尾崎小学校
 - 阿久根市立脇本小学校
 - 阿久根市立三笠中学校
 - 伊佐市
 - 伊佐市立菱刈中学校
 - 出水市
 - 出水市立大川内中学校
 - いちき串木野市
 - いちき串木野市立串木野小学校
 - いちき串木野市立照島小学校
 - いちき串木野市立羽島小学校
 - いちき串木野市立旭小学校
 - いちき串木野市立福小学校
 - いちき串木野市立荒川小学校
 - いちき串木野市立市来小学校
 - いちき串木野市立川上小学校
 - いちき串木野市立串木野中学校
 - いちき串木野市立串木野西中学校
 - いちき串木野市立羽島中学校
 - いちき串木野市立生冠中学校
 - いちき串木野市立市来中学校
 - 神村学園初等部
 - 神村学園中等部
 - 県立市来農芸高等学校
-
- 県立串木野高等学校
 - 神村学園高等部
 - 神村学園専修学校日本語学科
 - 神村学園専修学校こども学科
 - 神村学園専修学校理学療法学科
 - 神村学園専修学校作業療法学科
 - 神村学園専修学校看護学科
 - 指宿市
 - 指宿市立西指宿中学校
 - 指宿市立南指宿中学校
 - 大島郡
 - 伊仙町立鹿浦小学校
 - 徳之島町立井之川中学校
 - 鹿児島市
 - 鹿児島市立伊敷小学校
 - 鹿児島市立中洲小学校
 - 鹿児島市立宮小学校
 - 鹿児島市立鹿児島玉龍中学校
 - 鹿児島市立黒神中学校
 - 鹿児島市立坂元中学校
 - 鹿児島市立清水中学校
 - 鹿児島市立武岡中学校
 - 鹿児島修学館中学校
 - 鹿児島情報高等学校
 - 肝付郡
 - 肝付町立岸良学園
 - 南大隅町立根占中学校
-
- 霧島市
 - 霧島市立霧島中学校
 - 鹿児島第一高等学校
 - さつま町
 - さつま町立宮之城中学校
 - 薩摩川内市
 - 薩摩川内市立川内小学校
 - 薩摩川内市立手打小学校
 - 薩摩川内市立平佐東小学校
 - 薩摩川内市立川内南中学校
 - 薩摩川内商工高等学校
 - 曾於市
 - 曾於市立末吉中学校
 - 十島村
 - 十島村立中之島小学校
 - 十島村立中之島中学校
 - 長島町
 - 長島町立長島中学校
 - 日置市
 - 日置市立伊集院北小学校
 - 日置市立妙円寺小学校
 - 日置市立和田小学校
 - 日置市立伊集院中学校
 - 枕崎市
 - 県立鹿児島水産高等学校
 - 南九州市
 - 南九州市立松山小学校

萬造寺 齊（まんぞうじひとし） 明治19年（1886）羽島生れ。

明治38年(1905)18歳の時、第七高等学校に入学。与謝野晶子・寛に師事し、『明星』の歌人として「七高に萬造寺齊あり」といわれる。

明治41年(1908)21歳のとき、東京帝国大学英文科に入学。その後、与謝野寛の門下生になる。この時石川啄木、高村光太郎、北原白秋など多くの歌人・詩人と交流を行う。

東京大学在学中に『明星』が廃刊になり、森鷗外を中心として『すばる』が発刊される。大正3年(1914)独力で『我等』『街道』を刊行。京都に拠点を置き活躍した。戦後、歌集『萬造寺齊選集』10巻が刊行される。

大正7年(1918)31歳のときに郷里に帰る。

昭和32年(1957)7月9日、療養所で70歳で亡くなる。

同年11月、串木野市主催、鹿児島県後援の文学葬が母校である羽島小学校で行われる。

昭和35年(1960)3月、羽島崎神社境内に歌碑が建設された。

歌碑には、萬造寺齊の歌集から作家である佐藤春夫が選んで新村出博士が揮毫した3首の歌（※）と、友人である矢野峰人による歌碑を建てたいきさつが刻んである。



羽島崎神社境内にある歌碑



萬造寺 齊 生誕の地

※望郷歌

行かまほし悩みいたづき振りすてて

南の海辺遠きふるさと

ふるさとや海のひびきも遠き世の

こだまの如し若き日思へば

ふるさとの浜の砂原小石原

生きてふたたび踏まむ日なきか